

ゆうすけ通信

発行責任者／福山市議会議員 大田 祐介
後援会事務所／〒720-0825
福山市沖野上町3-6-33
TEL:084-932-7855
FAX:084-921-8801

vol.15

ふくやまワイン特区がスタート!

トピックス

福山・山野町 耕作放棄地で育成



芯を取り除くため、ブドウを機械に入れる人たち ー福山市山野町

地方創生の一環として自ら国に対して「ワイン特区」を申請し、山野町でぶどうを栽培してワインを醸造し、古民家を改修した民宿で提供するという事業に取り組んでいます。地域活性化、耕作放棄地の解消、空家対策、地産地消、グリーンツーリズム、特産品作り等、様々な効果を狙っています。



大田ゆうすけ市政報告会のご案内

- ◆ 日時：1月23日(土) 14時～16時
- ◆ 会場：「アルセ」2階・アップルの間にて
- ◆ 参加費：無料(飲食はありません)
- ◆ ゲスト：トライアスリート・福元テツロー他

<テーマ> 競馬場跡地の利活用計画、東京オリンピックに向けたスポーツのまちづくり他
※どなたでもご参加できます。お誘い合わせの上、多数ご参加ください。

4年間の足跡

ほぼ毎議会一般質問に立ちました!

H24.6議会

福山・府中救急支援診療所
子ども発達支援センター
震災瓦れきの受け入れ

H24.9議会

ジェネリック医薬品の普及

H24.12議会

学校図書館について
古典の日の取り組みについて
学校周辺の活断層について

H25.3議会

公共下水道整備計画について
河口堰における潮汐発電の可能性

H25.6議会

固定資産税「わがまち特例」
出原浄水場の施設更新

H25.9議会

観光大使ウルヴァリン
戦没者追悼式における工夫は
選挙の投票率について

H25.12議会

鞆の浦駅伝大会について
台風被害のタクロパン市への
支援策
看護師不足について

H26.6議会

認知症方不明者の実態把握
自転車のみちづくりについて
競馬場跡地の利活用

H26.9議会

芦田川河口堰の収支について
学校司書の配置について

H26.12議会

RDF発電事業について
ふくやまマラソン鞆コース

H27.6議会

地域医療構想・介護保険の
適正化
戦後70年の取り組み

H27.9議会

地方創生の取り組みについて
二子塚古墳の保存管理計画

「ワイン特区」で初の仕込み

福山市山野町の農家民宿「やまの宿・西元」で、同町の耕作放棄地を開墾して育てたブドウを使った赤ワインの仕込みが始まった。今年3月に国が認定した「ふくやまワイン特区」を活用した初めての取り組みで、12月上旬に完成する予定。地元住民も参加して行われた仕込み作業では、宿の向かいにあるブドウ畑(約50ア)に実

った品種「キャンベル」約500キを収穫。傷んだ粒を1粒ずつ手作業で取り除き、民宿にある醸造場に運んだあと、機械で軸を除去して果肉をつぶし、専用タンクに詰め込んだ。10日ほど発酵させて絞り出したあと、2次発酵タンクに移して、さらに約2カ月寝かせて完成する。すっきりとした飲み口の赤ワインに仕上がると予定。

民宿を運営する「福山健康舎」(同市沖野上町、大田祐介代表)によると、同町は標高が高く、昼夜などの寒暖差も大きいことからブドウ栽培に適している。過疎化が進む同町の活性化を目的に、数年前から古民家を再生して民宿にリフォームするとともに、地元住民の協力を

得てブドウ栽培を始めたという。

仕込みに参加した同町の農家、藤原国勝さん(73)は「山野町の名物になり、多くの人が集まってくれるきっかけになれば」と期待を込めた。

ふくやまワイン特区は、少量の醸造でも製造免許を取得することができるといった規制緩和があり、同市全域が対象となっている。

産経新聞 備後版 平成27年9月24日より



祖母 大谷秋子(当時100歳)

日本版CCRC構想

政府が打ち出した大都市から地方への移住案・日本版CCRC構想(高齢者コミュニティ)は、高齢者の地方への押し付けだといった批判が大きい。例えばアメリカのように競馬場跡地のような広大な土地に医療・介護施設・老人大学・シニア人材センター等を集約した高齢者福祉村を作って、都会の高齢者を受け入れよという構想のようだ。それよりも地方の既存のコミュニティ組織を活用し、介護が必要となる前の元気な高齢者を受け入れ、まずは介護する側に回ってもらうのが筋だろう。例えば城南学区には医療センター、循環器病院、脳神経センター、大田記念病院等、多くの医療機関が集積している。城南学区こそ日本版CCRCにふさわしい地域かもしれない。

しかし、この構想は医療・介護費用を抑制するための策で

「祐介の目」

経済リポート H27年8月1日号掲載

もあり、適切な対応が必要だ。まず県単位で策定する「地域医療構想」により2025年に向けて病床の削減が行われる見込みであり、医療費抑制策は一層厳しくなる。市内医療機関は基幹病院である市民病院を中心としてより連携を深めるべく、市民病院にリーダーシップを発揮するよう議会で要望している。

次に、介護の分野では従来「成果」が問われなかった側面がある。つまり、要介護度が悪化しても「仕方がない」で片付けられた。これこそ介護費用がかさむ原因ではないか。また、介護は非効率な点も沢山ある。例えば介護保険事業所に空きがあるか否か、現状では電話で確認するしかない。ところがホテルなら予約検索サイトが複数あり、日時・食事の有無等をネットで予約できる。飲食店においてても予算や和洋中を指定して検索すれば、その店の評価も含めて様々な情報が入手できる。同様に介護保険事業所の予約や評価がなされれば、より適切なケアマネジメントが行われ、施設の稼働率も上がり、要介護度改善の努力も期待できる。その結果、福山においてCCRCが誕生し、地方創生が図れるのではないか。



レイテ富士の前での慰霊祭

戦後70年に思う

この7月、著書「永遠の四一」を読まれたご遺族及び私の息子とフィリピンのレイテ島・慰霊巡拝の旅に出た。歩兵第四連隊の通信中隊長だった中村鎮大尉と速射砲中隊の砲手だった金本末太郎曹長のご遺族、計7名をご案内した。

今回の旅のポイントはレイテにおける二人の足跡をほぼ完全に辿り、当時の戦場跡で二人が戦った状況を解説できた事だ。出発前に県庁の社会援護課に軍歴照会を行い、生前の日記を解読し、写真を整理して準備をした甲斐があった。これで中村家と金本家に埋もれていた歴史が再発見され、先祖に祖国のために戦った武士が居たという事が語り継がれる事だろう。

ところで毎年のようにフィリピンに行く、アジアにおける国際情勢の変化がよくわかる。フィリピンは1987年に核兵器の持ち込みを禁止する新憲法

「祐介の目」

経済リポート H27年9月1日号掲載

を制定し、在比米軍基地を追い出すことに成功した。しかし、それを見越したかのように中国が南沙海に侵入し、南沙諸島の領有権を主張して、軍事基地化している事は周知の事実である。これは沖縄米軍基地と尖閣諸島の問題における教訓と言えるのではないか。

先の大戦で日本兵50万人、フィリピン住民は100万人が犠牲になったと言われる。住民の犠牲者の大半は米軍の砲撃の巻き添えであったが、日本兵に殺された住民も少なからずいた。そして戦後、BC級戦犯は数百人を数えたが、妻子を殺されたキリノ大統領の特赦により多数が死刑執行を免れた。大統領の「日本とは今後友好関係を築く必要がある。そのために赦しがたきを赦す」という決断で、日本国民挙げて感謝したという。

今夏アキノ大統領は「日本は揺るぎない、信頼できる仲間」と語り、アメリカが世界の警察官を返上しつつある現在、南沙海の秩序の守護者としての日本への期待は大きい。もしフィリピンが対中関係において支援を求めてきた場合、前記の日記の歴史を思い出し、集団的自衛権について熟慮すべきだろう。



自治創造学会にて

ワインバレー構想

千曲川ワインバレー構想は、エッセイストでありヴィラデストワインリーのオーナーである玉村豊男さんが提唱し、多くのワインリーが流域に集積しつつある。千曲川流域は降水量が少なく、日照時間が長い。えに気候と水はけが良く、土壌の質がワイン醸造用ぶどうの栽培に適している。

福山市山野町を流れる小田川は、芳井・井原と流れて総社で高梁川と合流する。この小田川の流域は元来ぶどうの産地が多く、千曲川流域と同様にワイン生産に適しているのではないだろうか。私は「ふくやまワイン特区」の認可を受けて、9月16日にぶどうの収穫と「山野峡ワイン」の仕込みを行った。このワインは年末には飲めるようになるが、特区の制限として山野町の農家民宿「やまの宿・西元」に来た人しか飲めない。量としてはわずか300ℓ程度であるが、これが小田川ワ

インバレー構想の最初の一步になると目論んでいる。そして、井原市においてもワイナリーを立ち上げる動きがあり、福山市も連携中核都市圏推進事業として井原市とのワインによる連携を模索している。この県境を越えた連携が成功するよう、井原選出の上田勝義議員と共に可能性を探っている。

さて、ワインを作る以上に大切なのが、販路の開拓だ。例えば島根ワイナリーは出雲大社の至近、ひるぜんワイナリーは赤山高原に位置し、多くの観光客がついでに訪れて購入してくれる。福山でぶどうの産地と観光地がセットになっている場所は、沼隈のみくろの里や鞆だろ。八日谷樹園地の主力であり、元々はワイン醸造用品種であるベリーAを使ってワインを作り、弥勒の里ワイナリーや鞆の浦ワイナリーとして売り出しているかがだろう。沼隈半島を流れる山南川ワインバレー構想として検討してほしい。

「祐介の目」

経済リポート H27年10月1日号掲載





宮沢経済産業大臣と

新たな広域連携

福山市が手を挙げて備後圏域の近隣市町(三原・尾道・府中・世羅・神石高原・笠岡・井原)が連携協約を締結し、新たな広域連携の展開を図る国の委託事業「連携中核都市圏」構想がスタートした。

備後圏域が目指すべき方向として、地方の特色である第一次産業の活性化やものづくり技術を生かした産業振興、グローバル化に対応できる人材育成、医療・福祉分野での連携強化などに取り組む考えだ。国の狙いは若い世代の大都市圏への流出を抑えるタムの役割だ。先日、市議会水曜会のメンバーと共に総務省と経済産業省を訪問し、宮沢経産大臣や地方創生に関わる官僚にレクチャーを受けた。国は様々なメニューを用意してくれているが、地方の多くの人材が都市圏の大学に進学してそのまま就職するため、地方は大変な人材不足である。これの改善策を備後圏

「祐介の目」

域が作るすれば、都市圏に負けない魅力的な大学や企業の育成だろう。

また、第三次産業の活性化において備後圏域にはお手本となるまちがある。それは世羅町である。人口わずか1万7千人のまちが駅伝のまちとして全国的に有名となり、町内各地に一次産業を主体とした観光農園が開かれ、多くの観光客を誘致して住民の満足度も高い。気になる点は医療過疎だが、やまなみ街道の開通により、尾道・福山の病院にすぐ行けるようになった。

これまでも広域連携は様々な分野で行われてきた。福山市が中心のRDF方式による廃棄物処理は、当初は事故やコスト高で失敗と思われ、一部市町が脱退の方向に舵を切った。しかし東日本大震災を契機にRDF発電所はバイオマス発電所として注目され、原発に代わる安定電源と評価されている。背景には電力の固定価格買取制度(FIT)があるが、同様の思い切った地方優遇策を打ち出してもらわないと地方でダムなど作れない。

いずれにしても来るべき人口減少社会と東京一極集中を打破すべく備後圏域の持つ潜在的な魅力を發揮し、圏域の自立を旨とすべきではない。



田母神俊雄さんと

建国を祝う会

2月11日の建国記念の日、私が顧問を務める日本会議福山市支部主催・福山商工会議所後援「建国を祝う会」がリーディングで開催された。田母神俊雄氏の記念講演「日本を守る・集团的自衛権から憲法改正へ」を目当てに私達の予測を大幅に上回る1400人の方が参加された。

航空幕僚長を務めた田母神氏は、日本は武器輸出国になるべしと説いた。一例を挙げれば航空自衛隊の戦闘機はすべて米国製であり、同型式でも米軍のそれより能力的に劣る格落ち機で、しかも米軍提供のソフトが無いと稼働しない。これでは同盟国と言いつつも未だに米軍の占領下、属国と言っても良い状態ではないか。かつて「零戦」という傑作戦闘機を作った日本の戦闘機生産技術は封じられて久しい。私は、集团的自衛権の行使に

「祐介の目」

より他国の戦争に引き込まれないようにするために、自国で自国の兵器を開発する事が最も重要ではないかと感じている。国産兵器の開発が国の技術力を向上させる事は歴史が証明している。あの永世中立国のスイスさえも武器輸出国だ。

もちろん戦力を保持する以上正義の政治が不可欠であると強く思う。

ジャーナリストの桜林美佐氏によれば国産戦車一両を製造するのに約1300社に及び企業が関係しているそうだ。その多くが町工場であり、ものづくりのまち福山においても関係企業は多い。戦車の生産台数は年間わずか数台であり、製造ラインは閑古鳥が鳴いているのが実態である。軍需産業が儲かるなど空想であり、多くの企業が国のために儲け度外視で部品を製造している。

すでに戦後ではなく、戦前であるという声を聞く。私は国防の実態を知るために機会を見つけて千歳から那覇まで各地の自衛隊基地を見学している。自衛隊は誰に対しても門戸を開いているので、皆様もぜひ一度基地を訪問して国防の最前線を視察してほしいかがどううか。その上で憲法改正の是非を判断していただきたい。



ブレス機でぶどうを搾る

ふくやまワイン特区

福山でワインと言つと唐突だろうか。ワイン作りは農業であり、良いぶどうが出来れば良いワインが出来ると言われている。沼隈等のぶどうの産地を有する福山市は、国産ワインファームに乗れる可能性があるのではない。

私は6年前にJA瀬戸主催の「ぶどう塾」に参加し、栽培のノウハウを習った。そして、山野町の休耕田を借りてキャンベルという品種を百本栽培している。今までは趣味の領域だったが、今年から事業として取り組む覚悟だ。

最初は「ワイン特区」の申請である。ワイン醸造免許のハードルは高く、最低6トン醸造できる設備が必要だ。それには数千万円単位の設備投資が必要だが、福山市が国からワイン特区の認定を受ければ、最低6トンの制限は無くなる。しかし、そのワイン製造には以下の要

「祐介の目」

件が課せられる。すなわち「農業者が自ら生産したぶどうで作ったワインを、自ら運営する農家民宿・農家レストランで提供する場台に限る」と厳しい。

そこで、私はぶどう畑の地主と正式に契約を結び、農業委員会に届け出て農業者としての認定を受けた。次に畑の前の古民家を農家民宿、裏の蔵を醸造場の要件を満たすよう改装している。さらに畑には山梨の志村葡萄研究所から取り寄せた1千本のワイン用ぶどうの苗を植える。ワインができるのはしばらく先だが、山野町でしか飲めないワインは過疎の山野町の活性化に資するだろうし、まさに日本一小さなワイナリーとなるだろう。山野町に続いて福山市の他の地域においても同様の取り組みが起る事を期待している。

最後に全国各地で特区(規制緩和)を活用した地域活性化が行われている。ぜひ先行事例やビジネスモデルを研究して、福山市において取り組めば良い特区があれば、国に申請されてはいかがだろうか。多くの方が勘違いをされているが、申請主体は自治体だけではなく、個人でも法人でも可能だ。及ばずながら私も今回の経験を活かしてお手伝いができるだろう。



16歳当時の愛車「CB50」

2サイクルと4サイクル

私が16歳の時に初めて乗ったオートバイはホンダCB50であり、4サイクルエンジンを搭載していた。このエンジンは60年代に本田宗一郎が2輪世界グランプリに挑戦した際の遺産とも言え、わずか50ccのエンジンに4サイクルの精密なメカが詰め込まれていた。しかし、当時のオートバイ業界は2サイクル全盛期であり、軽量化で安価で加速に優れる2サイクルは、レースの世界でも完全に4サイクルを凌駕していた。私もCB50から2サイクルのヤマハRZ50へ乗り継いだ。

ところで、本田宗一郎は2サイクルが大嫌いだ。70年代末、ロードレース最高峰GP500において、NP500という当時の常識を逸脱した楕円ピストンエンジンを搭載したマシンに、エースライダー片山敬済を乗せて他社の2サイクル勢に対抗した。成績は低迷

「祐介の目」

し、片山はグランプリライダーとして一番良い時期を無駄にしたと言われている。モトクロスにおいてもより車体の軽量化が求められるため、開発陣は社長に内緒で2サイクルのモトクロッサーを開発した。それは映画俳優ステイブ・マッククインをCMに起用したエルクシニアだった。本田宗一郎は自分の知らない自社製のオートバイに驚いたとか。

時代は流れ、排ガス規制の強化と共に2サイクルのオートバイはほぼ姿を消した。そしてホンダはオートバイ販売台数で世界首位をキープしている。私は、本田宗一郎が4サイクルにこだわった成果が今頃開花したと感じている。あらゆる業界で時代の流れに乗るべく、従来の技術や手法を否定する動きがある。あたかもそれが正義であるかのように振舞う人もいる。しかし2サイクルと4サイクルのように、30年という長いサイクルでの見直しは大きな教訓ではないか。創業者の経験と勘は大切にすべきだ。

私が乗っていたCB50型エンジンが長らく生産中止であったが、近年エフ50に搭載され復活した。免許を取って30年、感慨深いものだ。



大田浩右著「脳過敏感」

早寝早起きは三文の得

父・大田浩右が「慢性愁訴の治療革命・脳過敏感」を出版した。医師50年の経験から、原因不明の医者からさじを投げられた頭痛、めまい、不眠、しびれ、痛みの治療方法を解説した内容である。医学書ではあるが専門的な部分を飛ばして読めば素人でも十分に理解できる。

脳過敏感には他にも耳鳴り、口渇、動悸、息苦しさ、食思不振、嘔気、手足のしびれ、冷え、痛み、発汗、無汗、頻尿、イライラ、疲労感等の多彩な症状があり、自律神経のバランスが崩れているので、明神館クリニックを受診をお勧めする。

自律神経のバランスは、神経伝達物質である各種ホルモンにより保たれている。慢性ストレスによりこのホルモンのバランスの崩れた状態を、①生活のリズムの改善、②心のストレスを減らすために考え方の改善、③寝る前に少量の服薬「ナイト治療」という3本の矢でパ

「祐介の目」

ランスを整える事が脳過敏感の治療である。

具体的には、太陽と協調した生活リズムを心がけ、眠るべき時間に眠り、起きるべき時間に起きる。ウォーキング・ジョギング等の運動が何よりの薬であるという。特筆すべきはナイト治療であり、今まで山のように飲んでいた安定薬・鎮痛薬を中断させ、夜間に分泌される成長ホルモンやメラトニンが効果的に作用するよう20時に治療薬を少量服薬させ、22時に就寝する。心と体の修理は夜間に行われるのである。

子供の睡眠と学校の成績も同様であり、23時以降に就寝する集団と22時半までに就寝する集団の成績には有意に差があるそうだ。実は180年前に書かれた自己啓発書「自分を鍛えるジョン・トッド著、渡部昇一訳」にも「いやしくもこの世で何かを成し遂げたいと思うならば、早寝早起きの習慣を身に付けることが絶対必要」と述べてある。

そして早起きをして何をするか。倫理法人会の経営者ミーティングセミナーに参加されているかがどうだろうか。

障害者雇用について

私が病院勤務をしていた頃、ある女子高校生が脳髄膜炎で入院し、数ヶ月も意識不明の状態となった。彼女は才能豊かだった。懸命の治療により一命は取り留めたものの、高次機能障害が残ってしまった。

高次機能障害とは、交通事故ややくも膜下出血等で脳に損傷を受けた後に残る記憶障害や注意障害等を指す。ゆえに退院しても「集中できない」「注意力散漫」「人間関係が保てない」等の問題が発生し、就職できない方も多い。

彼女の後遺症は軽度であったので、進学して介護福祉士になった。その理由には病院への入院体験があったに違いない。そして自分が入院した病院に就職を希望してきたのだ。ところが医者が面接すれば高次機能障害がある事は一発でわか



院内コンサート「瀬木貴将さん」

「祐介の目」

る。採用には賛否両論あったが、当院に入院して後遺症が残り、当院に就職を希望する、断るわけにはいかない」と、私が強引に押し込んだ。

案の定、問題はいろいろ発生したが他の職員のフォローで彼女は生き生きと仕事をしていた。彼女が職場に加わる事により、職員間の絆が強まるという効果があったようだ。また、プロのミュージシャンが院内コンサートに来た際に、彼女にピアノで伴奏するように仕組んでみた。プロはそうとは知らず、リハーサルで厳しく指導し、彼女も一生懸命練習してコンサートは大成し終わった。終わってプロに内情を打ち明けると「先に聞いていたらコンサートは失敗していた」と言い、彼女は彼女で大きな自信を得ていた。

福山市における障害者雇用といえば、(株)FJの「愛ハック」や(株)FJの「すまいるエフライン」が有名だ。「大手だから」勢いのある会社だからと思つ方もいるだろうが、(株)FJのような中小企業も多い。障害者の方を積極的に受け入れた事が会社の発展に繋がったのではないかと。多様な社員がいる方が組織の総合力が高まるのではないかと。